

# 時計台通信

# 5月

## 4月の七区小学校

新型コロナウイルス感染拡大防止の取組の最中  
それでも子どもたちは、自分を高めようと、  
七区小をよりよい学校にしていこうと、  
日々精一杯がんばっています。

### 【4月7日（火）】

一学期の始業式の日、満開の桜並木の横を、子どもたちがきちんと一列に並んで登校してきました。6年生を中心として、高学年の班長、副班長さんの



意識の高さを感じました。見守り隊の方々からも、「班でまとまって、きちんと登校できていて素晴らしい！」というお褒めの言葉をいただきました。

### 【4月9日（木）】

給食開始。コロナ対策で、全員前を向いて、黙って食べます。それを素直に守って静かに給食を食べる子どもたちの姿に感動しました。子どもたちのがんばりが、感染拡大防止にきつとつながると信じています。



### 【4月10日（金）】

入学式の日。  
きちんと足を揃えて座る新1年生の姿が印象に残る入学式でした。でも、新1



年生がきちんとがんばるように、ピンとした雰囲気をつくってくれているのは、後ろに座る6年生です。6年生のがんばりで、新1年生にとっても、その保護者の方々にとっても、そし



て七区小学校にとっても、素晴らしい入学式となりました。地域の皆様に見ていただけなかったのは残念ですが、暖かい雰囲気の中にも、儀式としての緊張感がある入学式となりました。

【4月14日（火）】

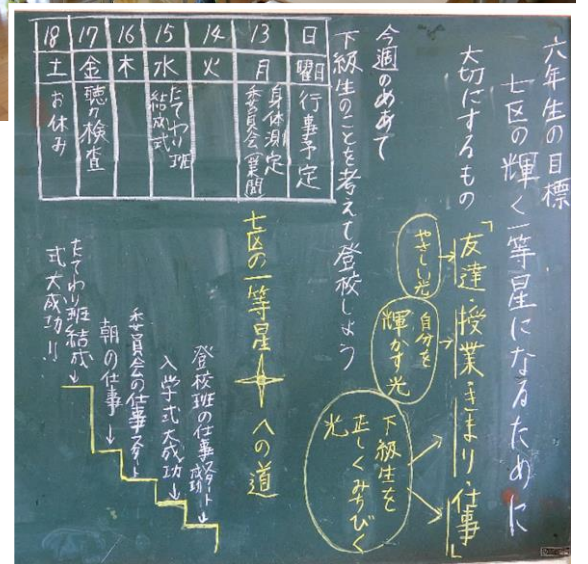
地域ボランティアの鳥越さんに来ていただき、七区小の農園に6年生がジャガイモを植えました。鳥越さんが芽だしをしてくれたジャガイモを、ボランティアの方に手伝ってもらいながら、丁寧に植えていきました。その後の管理の仕方や育て方のコツも教えてもらいました。収穫の日が今から楽しみです。鳥越さんをはじめとするボランティアのみなさん、ありがとうございました。



【4月15日（水）】

縦割り班結成式。学年を越えて仲がよく、誰とでも協力して仕事ができるのは、七区小学校のよき伝統で、素晴らしい特徴です。

でも、自然にそうになっているわけではなく、そうなるための組織づくりと運営があつてのことなのです。縦割り班がその組織であり、この運営をしていくのが6年生です。6年生がリーダーとなり、1年生～5年生の思いを上手に汲みながら、縦割り班でどんな遊びをしていくか話し合っています。進行をする6年生のはっきりした声、リーダーらしい自信を持った立ち振る舞い、そして下級生たちを気づかう心配り、最高学年としての自覚の高さを改めて感じました。また、この日のために、入念な準備をしていたことも覗えました。



6年生の教室の後ろ黑板には、右の写真のような板書がありました。「自分を輝かす光」「下級生を正しくみちびく光」そんな光を放つ「七区の輝く一等星になること」が6年生の目標だと書いてありました。そうか、通学班で見せた責任感、入学式での素晴らしい態度、縦割り班結成式でのリーダーシップ、一日一日が6年生にとっては、七区の一等星になるための階段だったのだと、この黑板を見て納得しました。そして確実に、その階段を昇り、6年生は輝きを増しているのです。まばゆいばかりに輝く一等星に一步一步近づいているのです。

## 【4月16日（木）】

がんばっているのは、6年生だけではありません。

この日の朝、入学式で使った花の鉢を、5年生の子どもたちが体育館から玄関まで運んでくれました。一人で何往復もした子もいます。朝休みのボランティアです。自分のことだけでなく、学校のため、みんなのために、進んで働いてくれる5年生の姿に頼もしさを感じました。5年生は、人数こそ少ないですが、やることは大きいのです。



## 【4月17日（金）】

がんばっているのは、高学年だけではありません。この日の業間休み、美化委員会の子どもたちが呼びかけて、中庭の花壇の草抜きをしました。休み時間にもかかわらず、低学年・中学年の子どもたちを中心に、たくさんの子どもたちがボランティアに参加してくれました。あっという間に花壇はきれいになりました。



## 4月21日（火）からの子どもたちの暮らしについて

始業式から2週間。たった2週間でしたが、一つ学年が上がった子どもたちの、決意と志を感じることができました。明日から、感染拡大防止のための臨時休業に入ります。子どもたちと会えないのは、非常に残念ですが、今は何より、子どもたちとご家族、いやこの国、この世界に住む人々の健康と安全が優先される時期です。ここは踏ん張って、この危機をみんなで力を合わせて乗り越える必要があります。さて、子どもたちが、長い期間自宅で過ごすというのは、大人が考える以上に難しいことです。突然、時間割もきまりもない、やらなければならないこともない、自由に過ごせる時間をたくさん与えられると、人はかえって困ってしまうものです。束縛あつての自由なのだと、こんなことになって改めて気づきます。ただぼんやりと過ごすことに焦りを感じて苛立ったり、普段ならがんばれることができなくなって落ち込んだり、そんな経験をした子どもいるでしょう。大切なことは、子どもが自分で生活のリズムをつくることです。学校が子どもたちに与えていた、生活の枠を子ども自身でつくっていくことです。例えば、毎日決まった時間に、散歩（ジョギング）する、読書する、勉強するとか、家族のための仕事（お手伝い）を決めて毎日それをするのを日課にするとかです。もちろん、時間を決めてのテレビやゲームもあっていいと思います。要は時間とやることを自分で決めて生活することです。自分で自分の生活を律することです。難しいことですが、逆に言えば、今はそれに挑戦できるチャンスと捉えることもできます。といっても、子どもだけでは難しいかもしれません。保護者の皆様の協力が必要です。どうか相談にのってあげてください。